胃バリウム検査　受診対象外基準

胃X線検査を受けることが受診者様の不利益になると想定されるような状況や、自覚症状や既往歴などに対応し、検査可能かどうかを判断する際に安全基準を設けられています。

下記の表に該当する方は、バリウム検査を受けることができません。

事前に必ずお読みいただき、該当する自覚症状や既往歴がないかご確認ください。

該当する項目がある際は、必ず人間ドック前に申し出ください。

受診対象外の基準	基準の設定理由
①現在**妊娠中**の方、 また**妊娠の可能性**のある方	・妊娠中の方へのX線検査は胎児への安全性が確立されていません。
②**バリウム**製剤・発泡剤へ**過敏症**の既往歴のある方	・バリウムや発泡剤で過去に呼吸困難、じんましん、手足の冷えなどの症状が出た方、体調不良を起こしたことがある方は、今回バリウムを飲むことで**更に重い症状**が出る可能性があります。
③過去**3カ月以内**に**大腸ポリープ**を**切除**された方	・切除部分から、**穿孔・出血する可能性**があります。
④過去**1年以内**に**開腹手術、腹腔鏡下、開胸、開頭手術等**や**整形外科の手術**をされた方	・飲んだバリウムは腸の中でゆっくり固まりながら通過し、肛門から排出されます。 腸閉塞の既往や炎症性疾患があったり、**3日以上便秘**の状態であると、バリウムが腸内に停滞し固ってしまうことが予測され、**最悪の場合開腹手術**が必要となる場合もあります。 ・検査中は撮影台の上で移動・回転していただきます。そのため手足に力が入らず、撮影台の手すりを強く握れなかったり、足に力を入れて体を支えられないと、**撮影台から転落し大けがをする可能性**があります。
⑤**腸閉塞（イレウス）、腸捻転、消化管穿孔、炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の既往**のある方	
⑥**大腸憩室炎**の治療中の方	
⑦便秘症で**3日以上排便がない**方	
⑧過去**1年以内に狭心症、心筋梗塞、脳疾患（脳梗塞・てんかん等）を発症**したことのある方	・発症から日の浅い方は、検査時のストレスによる**再発作の可能性**があります。

⑨人工透析・慢性腎疾患・心疾患等で **水分摂取に制限**を受けている方	・検査後、バリウムの排出を促すため、**下剤や水分を多めに摂取していただく必要があります**。
⑩自力で**立位を保持**することや撮影台の **手すりを自分でつかむ**ことが**困難**な方	・検査中撮影台が回転します。手足に力が入らず、撮影台の手すりを強く握れなかったり、足に力を入れて体を支えられないと、**撮影台から転落し大けがをする可能性**があります。
⑪認知症の方・日本語の不可の方	・検査指示が理解できない場合**撮影台から転落し大けがをする可能性**があります。
⑫**植込み型ペースメーカー・除細動器、持続型血糖測定器（freestyleリブレ）使用の方**	**・X線装置により誤作動を引き起こす可能性があります。 （リブレは検査前に外すことができれば検査可能です）**
⑬喘息の発作のある方、在宅酸素療法を行っている方、	・誤嚥の可能性や撮影時の息止めが困難となる可能性があります。
⑭普段から食べ物や飲み物が呑み込みにくい方、むせやすい方。	・バリウムが気管に入り、**誤嚥性肺炎等重大な病気を引き起こす可能性**があります。
⑮以前にバリウムの誤嚥があった方	
⑯体重120㎏以上の方	・撮影機器の安全構造上の基準です。
⑰胃の手術歴（全切除・部分切除）のある方	・発泡剤による胃の拡張が得られないため、検査の質を担保できません。
⑱上部消化管疾患で治療中・経過観察中	・穿孔や病状の悪化を招く可能性があります。
⑲メニエール病	・検査時の回転により症状を誘発する恐れがあります。
⑳血圧180/110mmg以上	・日本高血圧学会による重症高血圧であり、合併症を誘発する恐れがあります。
㉑昨日21時以降食事をされている方	・残渣の存在により病変の観察が困難になるため、検査の質を担保できません
㉒検査3時間以内に200ml以上飲水された方	・水分がバリウムの胃の壁に付着せず病変の観察が困難になるため、検査の質を担保できません
㉓糖尿病薬（インスリン等）当日使用	・低血糖状態となる可能性があり、安全に検査を行うことができません

※　上記に該当する方以外でも 安全を考慮しお断りさせていただくこともございます。